

学習英文法考察

—英語未来表現—*

松尾 真太郎

1. はじめに

本稿では、日本の英語教育において最も重要な文法項目の一つである「未来表現」を取り上げる。まず、「未来表現」はどのような文法項目かを、学習指導要領に基づいて見ていく。次に、日本で英語を学習している高校生及び大学生を対象とした英語の「未来表現」に関する調査結果を分析、考察する。この調査では日本及び英米で刊行されている学習英文法書に則り、筆者が作成した調査用紙から結果分析のみならず、高校1年生及び大学1年生が、

(1) will + 動詞原形

The parcel *will* arrive tomorrow. (Leech 2004: 55)

(2) be going to + 動詞原形

The parcel *is going to* arrive tomorrow. (*Ibid.*)

(3) 単純現在形

The parcel *is arriving* tomorrow. (*Ibid.*)

* 本稿は関東甲信越英語教育学会第35回神奈川研究大会での発表内容に少なからず加筆・修正を加えたものである。発表内容に有益なコメントをいただいた渡辺雅仁氏（横浜国立大学）に記して深く感謝申し上げます。また、本稿の完成に向けて有益な質問、コメントをいただいた匿名の査読委員のみなさまにも謝意を表す。言うを俟たず、残る不備・遺漏は筆者一人に帰せられるべきものである。

(4) 現在進行形

The parcel *arrives* tomorrow. (*Ibid.*)

という4つの未来表現をどの程度理解しているのかについても検討する。最後に、調査結果を踏まえて、近年SLA研究で注目を浴びているFocus on Formの知見を基に、より効果的に「未来表現」を習得するための指導法に一石を投じる。

2. 先行研究

内藤(1999: 40)は英語の未来表現について5つの形式を取り上げ、「will—単なる推測、意志。be going to—根拠ある予測、意図。be -ing—計画的意図。現在形—確定的予定。未来進行形—なりゆきの予定。」と簡潔にまとめている。また吉良(2010: 162)も、単純現在をはじめとする未来を表す4つの形式について以下のように論じている。

単純現在は、過去や現在に対するのと同じ程度の高い確信性を持って、未来の行為・出来事について述べるものである。現在進行形は、個人的な予定を表し、その形式 (be -ing) が示しているように、未来に起こる事象がすでに現在進行中であり、発話時において手はず・手配が整っていること意味する。willは「その場の状況において初めて生じた意志」(発話時の意志決定)を表し、be going toは「前々から考えていた意図」(決定ずみの意図)を表す。

このように、英語の未来表現に関する研究は実に多く存在するが、大部分はその文法形式、用法、日常会話での表現方法について焦点が当てられたものになっている。その一方で、日本人英語学習者の未来表現習得に特化した量的研究は非常に数が少ない。そこで本研究では、高校生を中心とした日本人英語学習者を対象に、英語の未来表現の理解度や習得状況を軸に据えるため、研究質問を「与えられた状況、文脈に沿って適切な未来表現を選択できるか」と設定した。これは研究質問から得られうる教育面への示唆を、より普段の授業への還元性の高いものとするためである。

更に、これまで焦点が当てられてきた文法的側面を再考しながらも、研究対象者にアンケート調査を実施し、その結果から見えてくる、英語の未来表現に関する新たな課題や、その解決方法についても論ずる。

3. 現行学習指導要領による「未来表現」の位置づけ

文部科学省より2008年に公示された中学校の現行学習指導要領及び2009年に公示された高等学校の現行学習指導要領にて、扱うべき言語材料の一つに「助動詞などを用いた未来表現」という文言を見ることができる。この文法項目は中学校で指導するものであると述べられている（文部科学省2010: 49）。そのうえで、注目すべきは「未来表現」という言葉である。時制の観点から論ずると、英語を含むゲルマン語派の言語は、基本的に「現在時制」と「過去時制」の2時制であり、「未来時制」は存在しない。さらに、「現在形」、「過去形」のように動詞の形としての「未来形」も存在しない。言い換えれば、英語に現在時制と過去時制があるということが分かるのは、それぞれ対応する-(e)s、-edという屈折があるためである。未来時制に対応する屈折は存在しない。この点はフランス語などと対比させることができる。英語は発達の過程で、未来のことを表現するのに屈折という手立てを選ばなかったが、フランス語は選んだ、ということである。

1節に挙げた例文に見られるように、未来表現は現在形・過去形と違い、助動詞などとの組み合わせが必要になってくる。つまり、正確に今から後の出来事に言及する際には、will やbe going to、現在進行形や単純現在形という形を用いて未来を表す未来表現として複数の文法形式の理解が必要となってくる。

4. 学習英文法書の比較

先に述べた「未来表現」が実際の教育現場ではどのように指導されているのかを見る前に、英米及び日本国内で刊行されている学習英文法書を比較、分析したい。

4.1. 対象刊行物

本論で扱う学習英文法書は以下の通りである。

- (5) a. *Grammar Express* (Fuchs & Bonner, 2002)
- b. *Grammar in Use Intermediate* (Murphy, 2009)
- c. *The Good Grammar Book* (Swan & Walter, 2009)
- d. *Basic Grammar in Use* (Murphy, 2011)
- e. 『総合英語 Forest』 (石黒, 2013)

英米で刊行されている Swan & Walter (2009)ら 4冊に加え、国内で刊行されている学習英文法書の代表として『総合英語 Forest』の計5冊を比較した。その中から英米で刊行されている学習英文法書について、興味深い記述をもつ Fuchs & Bonner (2002), Murphy (2009), Murphy (2011) について実際の例文とともに触れたい。

4.2. 記述の具体

Murphy (2011) では、イラストを用いて、未来表現の習得を促そうとしている姿勢に学ぶ点がある。この文法書では未来を表す表現としてまず「現在進行形」が示されている点も興味深い。

例えば、電子手帳の中の予定などのように、既に決心し、準備を終えた未来の活動は現在進行形で表すということで、*I am playing tennis on Monday afternoon.* が最適である。現在進行形については、筆者が作成した後述の調査用紙中において Q3. として提示した。なお、実際に調査で使用した問題についてはそのすべてを参考資料に示す。またここで触れた用法を含め、ここに紹介する項目の考察については、筆者が作成した調査の中でも言及していることに鑑み、結果分析も含め後述する。

では、Murphy (2011) において現在進行形の次に提示されている未来表現は何になるだろうか。それは単純現在形だ。以下の会話を見てみよう。

- (6) A: Do you want to go to the movies tonight?
B: Yes, what time (a) is the movie beginning?
(b) does the movie begin?

- (c) will the movie begin?
 (d) is the movie going to begin?

時刻表をはじめとする固定して発生する未来の出来事には単純現在形が用いられる。会話中の発言なので、その文脈を考慮すると、ここでは Yes, what time does the movie begin? が最適である。固定して発生する場合、多くは物が主語にくる。次に (7) を見てみよう。

(7) I start my new job on Monday.

人が主語に来る場合も、Murphy (2009) に見られるこの例文のように、仕事を始めるということは会社との協議が必要であり、自分一人の力では変更することが難しい未来について単純現在形が用いられる。

引き続き、会話の流れの中での未来表現、という観点から以下を見てみたい。

(8) Sue is talking to Erica.

Sue: Let's have a party.

Erica: That's a great idea. We'll invite lots of people.

Later that day, Erica meets Dave.

Erica: Sue and I have decided to have a party.

We (a) are going to invite lots of people.

(b) will invite lots of people.

(c) are inviting lots of people.

(d) invite lots of people.

Dave: All right.

これはMurphy (2009) に示されている、SueとEricaがパーティーの計画をしている場面である。Ericaが話している最中に、パーティーに沢山の人を呼ぼうと決めた時の表現にはwillが用いられ、その後、パーティーの計画をDaveに改めて伝える際には、この計画は現在より前に決心された事柄になるので We are going to invite lots of people. のように、be going to を用

いる方が適切になる。これは文脈の中で英語の形と意味を理解するための有効な例である。

この他、be going to を用いる例として、Fuchs & Bonner (2002) ではテレビの番組表などを使用している。テレビの番組表は朝新聞を受け取った時点で決まっている未来の事柄なので、自分の決心も含め、「今夜〇〇の番組を見るつもりだ」という表現には be going to を用いる。

ここで、英米で刊行されている4冊の「未来表現」に見られる共通点をまとめる。

- (9) 「未来表現」としてどの文法書にも will, be going to、単純現在形、現在進行形の4つが示されている。
- (10) 「未来表現」を扱う際には絵や写真を効果的に用いて、記述的な説明だけで終わっていない。
- (11) 単文をいくつも載せるのではなく、文脈の中で、「未来表現」という新出文法項目を提示している。

ここまでは主として英米で刊行されている学習英文法書を見てきた。対して国内で刊行されている石黒 (2013) はどうであろうか。以下の図1のように、未来を表す表現としてまず、will を扱っている。そしてその次に will の説明と全く同じ小見出しを使って「be going to で未来を表す」とある。will と be going to を中心に据えている。

また、この文法書では、各々の未来表現が使われる場面を説明するなど、互いに比較することで差異を鮮明にし、使い分けを指導していこうという姿勢が窺える。しかしながら比較が終わると次に扱う項目が「未来進行形」になっており、英米の文法書では will と be going to に並んで扱われていた単純現在形及び現在進行形は、『総合英語 Forest』では will と be going to と同じように未来を表す表現の中には出てこない。補足的な位置づけだと言えよう。これも「機能」ではなく、「形式」に基づいて編集している文法指導書ゆえの特徴になっている。

『総合英語 Forest』の「未来表現」についてまとめると以下のようなになる。

- (12) will と be going to を対比させながら説明している。

- (13) 未来表現として will と be going to を中心に据えており、単純現在形と現在進行形は補足的な位置づけになっている。
- (14) それゆえに、英米の文法書に共通して見られた3つの特徴は、ここでは見られない。

図1. 『総合英語 Forest』における未来を表す表現の記述

3 未来を表す表現

英語の動詞の基本形は、現在形と過去形の2つである。未来は、「まだ存在しないあやふやな状況」なので、話し手の確信の程度などに応じたさまざまな表現がある。

1 will を使って未来を表す

TARGET ⇒ 0 3 3

(1) My brother **will be** twenty next year.
 (2) I **will give** you my answer tomorrow.
 (1) 私の兄は来年20歳になります。
 (2) 明日返事をします。

<p>■ 単純未来</p> <p>！ なりゆきで起こるであろうこと</p> <p>■ 意志未来</p> <p>！ 主語の意志</p>	<p>will を使って未来を表す場合は、<will + 動詞の原形>の形にする。(1)の will be は、話し手や主語の意志とは関係なく、自然のなりゆきで起こるであろうことを表す。このような表現を単純未来と呼ぶ。</p> <p>☉ It will rain tomorrow. (明日は雨になるだろう。)</p> <p><will + 動詞の原形>には、(2)のように、主語の意志を表す意志未来と呼ばれる用法もある (⇒ p.125)。</p>
--	--

2 be going to で未来を表す

TARGET ⇒ 0 3 4

(1) I'm **going to** buy a digital camera.
 (2) Are you **going to** study abroad next year?
 (3) It's **going to** rain.
 (1) 私はデジタルカメラを買うつもりです。
 (2) 来年留学するつもりですか。
 (3) 雨が降るだろう。

<p>■ be going to + 動詞の原形</p>	<p>(1)(2)では<be going to + 動詞の原形>という未来を表す表現が使われている。この表現は、話す前からすでにするつもりでいたことを表すのに用いられる。行動を起こすのは未来のことであっても、現在すでに心構えが</p>
------------------------------	---

70 動詞と時制 ▶ Part 2 ▶ 未来を表す表現 ▶ will を使って未来を表す / be going to で未来を表す

5. 日本人英語学習者への「未来表現」に関する調査概略

英語での「未来表現」に関する調査を行った。「与えられた状況、文脈に沿って適切な未来表現を選択できるか」という研究質問に基づき、高校1年生73名、大学1年生92名、計165名の協力を得た。調査方法として、アンケート形式を採用した。内訳は多肢選択型9問、自由記述型1問の計

10問となっている。多肢選択型問題については4.2節で述べたような問題を9つ作成した。記述型問題の問いは「あなたは、英語で未来のことを表現する時、‘will’、‘be going to’、‘現在進行形 (be + -ing)’、‘単純現在形’をどのように使い分けていますか？ 必要であれば例文を示しながら簡単に説明してください。」とした。記述型の問いについて、筆者が期待する回答は2節で述べた吉良 (2010) に基づく記述である。

なお、使用した問題に関しては、4.1節に示した中から一部改編したものもあるが、基本的には加工することなく使用している。会話の流れの中でwillからbe going toへの変化における理解度を調べる問題(8)も含めた。

6. 調査結果

ここでは4.2節で扱った問題を取り出し、調査から得られた回答及び正答率から考えられる対象学習者の理解度や学習背景を分析、考察する。

6.1. 会話の中での will から be going to への変化

まず調査問題 Q1. として(8)を再掲し、続けて高校生、大学生それぞれにおいて4つの未来表現への回答率を示す。

Q1. < >内の表現でより状況に合うと思うもの1つを選んで下さい。

(8) Sue is talking to Erica.

Sue: Let's have a party.

Erica: That's a great idea. We'll invite lots of people.

Later that day, Erica meets Dave.

Erica: Sue and I have decided to have a party.

We (a) are going to invite lots of people.

(b) will invite lots of people.

(c) are inviting lots of people.

(d) invite lots of people.

Dave: All right.

表1. 調査問題 Q1. に於ける回答率

	高校生	大学生
be going to	43%	38%
will	27%	27%
現在進行形	12%	20%
単純現在形	13%	7%

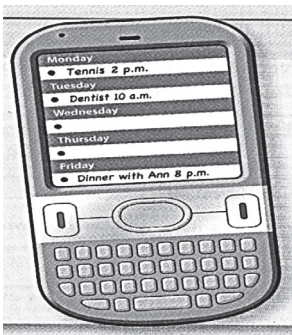
大学生、高校生ともに **be going to** を選んだ人数が最も多いが、同時に **will** を選んだ数も相当数にのぼっていることも見過ごせない。

6.2. 手帳の中の自分の予定

次に調査問題 Q3. として図2の Murphy (2011) を示し、同様にそれぞれの回答率を示す。

Q3. これはあなたのスケジュール帳です。月曜日の予定を英語で表す時、以下の表現でより適切だと思うもの1つを選んで下さい。

図2. Murphy (2011) による、現在進行形で未来を表す例



- (a) I will play tennis on Monday afternoon.
- (b) I am going to play tennis on Monday afternoon.
- (c) I play tennis on Monday afternoon.
- (d) I am playing tennis on Monday afternoon.

表2. 調査問題 Q3.に於ける回答率

	高校生	大学生
be going to	49%	63%
will	14%	13%
現在進行形	16%	4%
単純現在形	11%	13%

現在進行形を正答とする形で出題したこの問いについても、大学生、高校生ともに大半がbe going toを選ぶ結果となった。コミュニケーションに支障が出るほどのミスではないが、最適という意味では現在進行形が望まれる。

ここに示した2問を概観しただけでも、実際には「未来表現」を充分理解出来ていないことが推測される。

7. 分析と考察

調査結果を全体的な正答率、多肢選択型問題についての分析、自由記述型問題についての分析、という3つの観点から分析した。

7.1. 正答率

この観点から言えることは、「未来表現」の全体的な理解不足が窺えるということだ。しかし大切なことは「正答を選んだからできる、選んでないから出来ない」という二項対立的な捉え方ではなく、研究対象者がそれぞれの問題でどの未来表現を選択したのか、という回答の散らばり具合から現状及び問題点を把握することだと考える。指導者の教授方法についての省察も求められる。

7.2. 多肢選択型問題について

上述Q1、Q3.からも分かるように、調査では問題毎にどの未来表現を選択したのかばらつきが確認された。フレーズとして覚えやすいものや、これまでに何度も目にしてきた例文に近いと思われる問題などは比較的正答率が高めになっている。しかしながら正確な文法知識や文脈の流れを把握

するなどのプロセスを必要とする問題は正答率が低い。

7.3. 自由記述型問題について

「4つの未来表現をどのように使い分けていますか」ということを問いかけた問題であるが、正確な文法知識を基に上手に使い分けができていることが分かる回答はごく少数であった。回答例の一部を示す。

7.3.1. willについて

- ・直後の未来について述べる時（高校生／大学生）
- ・人間の感情や意思が入る時（大学生）
- ・今決めたことについて述べる時（高校生／大学生）

7.3.2. be going toについて

- ・既に決まっている予定について述べる時（高校生／大学生）
- ・will よりも少し後の未来について述べる時（高校生）
- ・確実性の高い未来の行動について述べる時（高校生／大学生）

7.3.3. 単純現在形について

- ・習慣的な未来の行動について述べる時（大学生）
- ・分からない（高校生／大学生）
- ・自分の意思とは関係ない未来の出来事について述べる時（高校生）

7.3.4. 現在進行形について

- ・今にも始まりそうな行動について述べる時（大学生）
- ・分からない（高校生／大学生）
- ・必ず起こる未来の出来事について述べる時（高校生）

単純現在形と現在進行形に関する知識は大学生レベルでも理解不足を感じさせる記述が多い。

この調査の結果から「中学校で初出であるはずの“未来表現”に関する指導が不十分なまま、高等学校での英語学習へと進んでおり、さらに高校英語においても、深い学びがなされないまま、他の文法項目との学習の中

に埋没し、学習者の学習範疇から“未来表現”という文法項目が抜け落ちている危険性がある」という結論に達した。

8. おわりに

効果的な「未来表現」習得へ向けて近年SLA研究で注目を浴びているフォーカス・オン・フォームの知見を基に検討したい。

フォーカス・オン・フォームとは、タスク中心教授法であり、学習者主導の言語教育の方法である。伝統的教授法、コミュニカティブ教授法に次ぐ第3のアプローチとも言われている。言語習得には、それが母語習得、第二言語習得の違いにかかわらず、常に3つの要素が関わっている。その3つとは、言語形式・意味内容・言語機能だ。外国語教育の世界的な流れは、伝統的教授法からコミュニカティブ教授法へと移行してきており、今現在は、そこから次に進むべき方向を模索しているところにあると言われている(和泉, 2009)。今日まで提唱されてきた教授法ではこの3要素のうち、言語形式・意味内容に焦点があてられることはあったものの、言語機能は他の2つに比べ、焦点があまり当てられてこなかった。この欠点を補うこともフォーカス・オン・フォームであれば可能である。

そこで、有効的なタスク例として高島(2005)の実践「泥棒の会話」を紹介したい。これは学習者が泥棒になったつもりで仲間の泥棒と、お互いの都合を合わせ、次に盗むお宝について計画を進めるものであり、ねらいとしては、

- (15) 話すことの言語活動を通して、仲間の予定とイベントの日程を確認し、いつ何を盗むのかを、相談して決定すること
- (16) いつ何を頂くのかを決めるため、お互いに自分の予定と自分が把握した仲間の予定を述べ、イベントの日程を確認する中で、未来表現 will と be going to の使い分けができる
- (17) 場面に応じて、意思を表す未来の will と予定が決まっている現実性の高い未来の出来事について表す be going to を正確かつ適切に用いて、予定などを表現することができる

の3点が挙げられている。筆者自身、英語表現 I¹の授業内で実践したところ、生徒との授業の振り返りにおいて「文法形式を意識しながらも使用場面に適した表現の使い分け」ができた実感した。

未来表現は極めて日常生活に密着した実用性の高い文法項目で、単に独立した文法項目ではないという、この事実こそが「未来表現」を学ぶ意義だと考える。今後の課題としては、先ほど示した、「未来表現」習得のためのタスクを、引き続きフォーカス・オン・フォームの知見に基づき、よりオーセンティックなもの、目の前に生徒の習熟度に適した独創性のあるものに日々改善していくことが挙げられる。

注

1. 2009年に公示された高等学校の現行学習指導要領において、「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、理論の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を一層伸ばす」という目標のもと、新たに設置された必修科目。

参考文献

- Fuchs, M., & Bonner, M. (2002). *Grammar express: For self-study and classroom use*. New York: Longman.
- 石黒昭博 (監修) (2013). 『総合英語 Forest (第7版)』 東京: 桐原書店.
- 和泉伸一 (2009). 『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』 東京: 大修館書店.
- 吉良文孝 (2010). 「未来表現」澤田治美・高見健一 (編) 『ことばの意味と使用 一日英語のダイナミズム』 (pp. 161-173) 東京: 鳳書房.
- Leech, G. N. (2004). *Meaning and the English verb* (3rd ed.). Harlow, England: Pearson Education.
- 文部科学省 (2008a). 『中学校学習指導要領』 京都: 東山書房.
- 文部科学省 (2008b). 『中学校学習指導要領解説: 外国語編』 東京: 開隆堂出版.
- 文部科学省 (2009). 『高等学校学習指導要領』 京都: 東山書房.
- 文部科学省 (2010). 『高等学校学習指導要領解説: 外国語編・英語編』 東京: 開隆堂出版.
- Murphy, R., & Smalzer, W. R. (2009). *Grammar in use intermediate: Self-study reference and practice for students of North American English* (3rd ed.). Cambridge: Cambridge University Press.

Murphy, R., & Smalzer, W. R. (2011). *Basic grammar in use: Self-study reference and practice for students of North American English* (3rd ed.). Cambridge: Cambridge University Press.

内藤永 (1999). 「英語の未来表現」『旭川医科大学紀要 (一般教育)』第20号, 31-41.

Swan, M., & Walter, C. (2009). *The good grammar book: A grammar practice book for elementary to lower-intermediate students of English* (2nd ed.). Oxford: Oxford University Press.

高島英幸 (2005). 『文法項目別英語のタスク活動とタスク : 34の実践と評価』東京: 大修館書店.

(神奈川県立川和高等学校)
matsuo-shintaro-my@ynu.jp

参考資料

調査で実際に使用した問題

Q1. < >内の表現でより状況に合うと思うもの1つを選んで下さい。

Sue is talking to Erica.

Sue: Let's have a party.

Erica: That's a great idea. We'll invite lots of people.

Later that day, Erica meets Dave.

Erica: Sue and I have decided to have a party. We < **(a) are going to invite / (b) will invite / (c) are inviting / (d) invite** > lots of people.

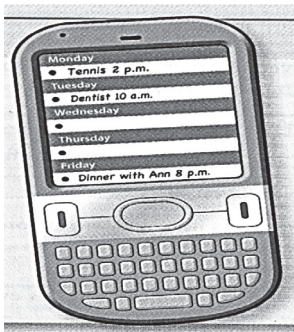
Dave: All right.

Q2. < >内の表現でより状況に合うと思うもの1つを選んで下さい。

A: Do you want to go to the movies tonight?

B: Yes, what time < **(a) is the movie beginning / (b) does the movie begin / (c) will the movie begin / (d) is the movie going to begin** > ?

Q3. これはあなたのスケジュール帳です。月曜日の予定を英語で表す時、以下の表現でより適切だと思うもの1つを選んで下さい。



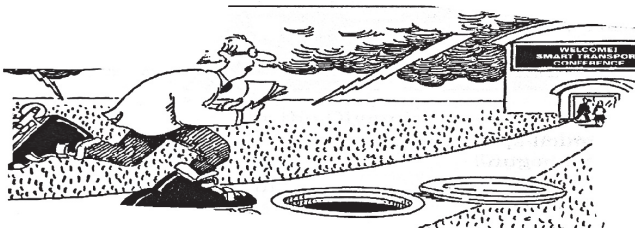
- (a) I will play tennis on Monday afternoon.
- (b) I am going to play tennis on Monday afternoon.
- (c) I play tennis on Monday afternoon.
- (d) I am playing tennis on Monday afternoon.

Q4. < >内の表現でより状況に合うと思うもの1つを選んで下さい。

A: My suitcase is very heavy.

B: < **(a) I'll carry / (b) I'm going to carry / (c) I carry / (d) I'm carrying** > it for you.

Q5. 以下の絵を見て、①・②それぞれについて< >内の表現でより状況に合うと思うもの1つを選んで下さい。

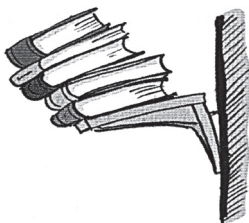


Oh, no!

① It < (a) is raining / (b) will rain / (c) is going to rain / (d) rains > !

② I < (a) get / (b) am going to / (c) am getting / (d) will get > all wet.

Q6. あなたはこのような状況をどのような英語で表しますか。(a)～(d)のうち、1つを選んで下さい。



(a) The shelf will fall.

(b) The shelf is falling.

(c) The shelf is going to fall.

(d) The shelf falls.

Q7. < >内の表現でより状況に合うと思うもの1つを選んで下さい。

“Tina, are you ready yet?” – “Yes, < (a) I’m coming / (b) I come / (c) I’m going to come / (d) I’ll come > .”

Q8. < >内の表現でより状況に合うと思うもの1つを選んで下さい。

Yomiuri Giants < (a) will start / (b) start / (c) are going to start / (d) are starting > spring training next week in Miyazaki.

Q9. あなたは、英語で未来のことを表現する時、‘will’、‘be going to’、‘現在進行形 (be + -ing)’、‘単純現在形’をどのように使い分けていますか？ 必要であれば例文を示しながら簡単に説明して下さい。

※ Q3、Q6の絵はMurphy (2011) から、Q5の絵はFuchs & Bonner (2002) から、それぞれ転載した。